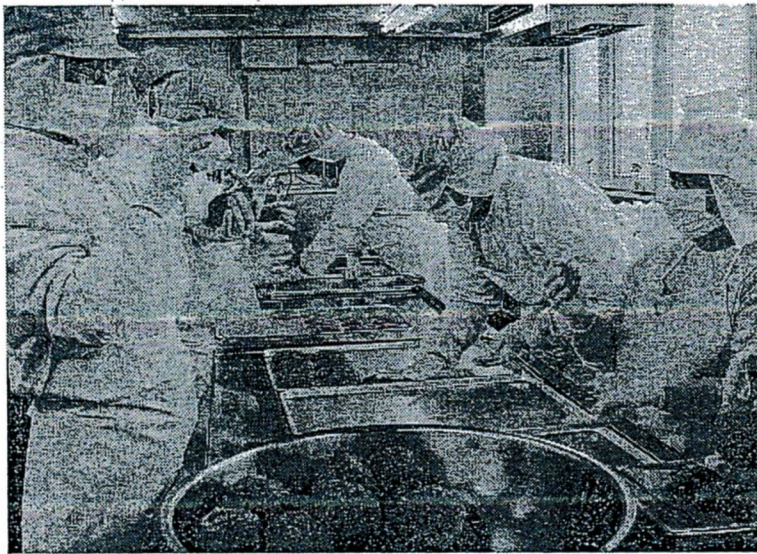


知的障害者授産施設「ほっぷすてっぷ」で手作り

小平のハンバーグ
東京で売れてます

【小平】町立の知的障害者授産施設「ほっぷすてっぷ」が、小平産黒毛和牛肉の手作りハンバーグを東京・有楽町の道産品販売拠点「どきんどプラザ」に出荷し、好評を得ている。土産としても重宝され、障害者たちの励みになっている。(上村英生)



小平産の牛肉でハンバーグを手作りする「ほっぷすてっぷ」の利用者

とろける味 コミで広がる

同施設は今年四月、町内鬼鹿にオープンした。町内の農家で飼育している黒毛和牛肉を使ったハンバーグは、これまで隣接する知的障害者入所施設「おにじか更生園」で作っていたが、新施設に大型冷蔵庫が備わったことで添加物を使わない

大沢邦昭施設長は「全国」の授産施設の賞金は月平均一万円少したが、うちハンバーグの売れ行きがいいので二万円は払える。施設利用者にとって

製品を大量に製造して冷凍し、地元以外にも出荷できるようになったという。和牛の柔らかく、とろけるような美味に引かれた百貨店の丸井今井(札幌)のバイヤーを通じ、「どきんどプラザ」で八月末から販売を始めた。本州での常時販売は初めてだったが、「東京でも勝負できるおいしさ」とバイヤーが決断したためだ。

と、最近は一週間から十日間程度で売り切り、追加注文が来るようになった。丸井今井は来年のお中元からギフト商品の方タロクに入れるという。また、小平の姉妹都市の東京・小平(こたいら)市の市民まつりなどで即売。首都圏在住の小平町出身者でつくる東京小平会の会員の間でも「おいしい」とのコミが広まり、注文が来るようになった。

「プラザ」からの注文は一個百二十個のハンバーグを五十個単位で受けている。出足こそ鈍かったが、ひとたび売れ出す

十月末からは、カラフルな移動販売車にハンバーグなどの食品類を載せ、留萌管内各地や旭川市内での販売も始めた。は留萌管内や旭川では一個二百円、東京では同三百八十円。問い合わせは「ほっぷすてっぷ」☎0164・57・1188へ。